

| 1 学校教育目標 | |
|----------|---|
| 教育目標 | 1 広い教養と専門的な知識技術を身に付け、望ましい勤労観・職業観を養う。 2 感謝の気持ちを持ち、地域や社会に貢献する心と態度を養う。 3 自ら思考し、判断し、責任ある行動のとれる主体的能力、態度を養う。 4 強い使命感と倫理観を持ち、創造性豊かで挑戦し続ける産業人の育成を図る。 |
| 育てたい生徒像 | 社会人として自発的・自律的に行動できる 1 基礎学力を含めた広い教養と専門的な知識技術 2 感謝の気持ちとボランティア精神 3 高い規範意識と正しい判断力 4 現状に満足せず主体的に学び続ける姿勢 |

<スクール・ミッション>

【定時制】
 生徒の多様なニーズに応え、一人ひとりの可能性をのばすキャリア教育や、地域・社会や地元企業と連携・協働した工業に関する教育活動等を通して、主体的に学び、地域・社会の要請に応え、地域産業に貢献しようとする、自立して社会を生きていくことができる人材を育成します。

| 2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて) | |
|------------------------|---|
| 【学習指導】 | 昨年度の授業アンケートでは100%の生徒が「授業がよくわかる」と回答した。本年度は、学期に2回、PDCAサイクルを回して、生徒に何が身に付いたかを確認しながら評価を行う。また、必要があれば授業改善に取り組む。さらに、引き続き、互見授業等を行い、教員の指導力向上を図っていく。 |
| 【生徒指導】 | 昨年度、全生徒の出席率が93.2%であった。本年度の目標は95%である。生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を行い、校則の遵守や時間厳守の意識を高めるよう粘り強く指導する。また、月1回の情報交換会等で情報を共有して全教員の共通理解のもとで組織的に指導にあたる。 |
| 【進路指導】 | 昨年度は13年連続進路実現100%を達成、本年度も継続して進路実現100%に取り組む。また、1・2年生については進路先の早期決定が図れるように生徒一人ひとりに合わせたきめ細かい指導を継続的に行う。 |
| 【特別活動】 | 昨年度はコロナ禍で行事を工夫しながら実施した。本年度も従来の行事を大切にしながら、コロナ禍でもできる行事を企画・運営して生徒の自主性を育成していきたい。 |
| 【工業科】 | 昨年度は資格、検定試験の学習やICT機器の活用拡大、新教育課程への対応を行い、工業全般の知識や技術指導を充実させた。本年度もこれらを継続し、就職に向けた技術の習得と、基礎学力の補充と定着を目指したい。 |
| 【業務改善】 | 昨年度は時間外労働時間削減と校務の見直し等について取り組み、十分な成果があった。本年度も引き続き、時間外業務時間の削減、校務分掌の見直しと業務改善に取り組む。また、ジョブローテーションが可能な体制づくりに取り組んでいく。 |
| 【地域連携】 | 昨年度はコロナ禍でもありボランティア活動等を断られることがあった。本年度については感染防止対策をしっかりと行い、関係機関としっかりと協議しながら、一つでも多く実施できるように創意工夫して取り組んでいく。また、ホームページを活用して情報発信に努めていく。 |

| 3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題 | |
|--|--|
| 1 ICT機器の効果的利用等による、わかりやすい授業の実践と公務の効率化 2 規律ある安心・安全な学校づくりと組織的な危機管理 3 キャリア教育の充実と丁寧な進路指導 4 学校行事や様々な媒体を利用した本校の魅力の積極的発信 5 探究活動の充実(地域と連携した教育活動・CSの仕組みの活用) | |
| (1)【学習指導】 | (4)【校務運営等】 |
| <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力や技術の定着 互見授業、研究授業、授業評価を活用した授業研究とICT機器の積極的活用による授業改善 主体的、対話的で深い学びの視点に立った授業実践 | <ul style="list-style-type: none"> 教員減に対応した持続可能な運営体制の見直し ICTを活用した校務の効率化 迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化 コミュニティスクール等地域、企業、異校種などとの双方向の連携強化 本校の特徴的な活動やものづくりの魅力の積極的発信 |
| (2)【生徒指導等】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 命の大切さや人権を尊重する心や態度の育成 交通法規の遵守とマナーの向上 部活動や特別活動の活性化 | |
| (3)【進路指導】 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 資格取得の促進 早い時期からの進路意識の醸成 就職サポーター等と連携した積極的な情報収集 生徒・保護者への確実な情報提供 最後まで粘り強いサポートの実践 | |

◎本年度のチャレンジ目標

① 進路実現100%

② 全校生徒で年間95%以上の出席

| 4 自己評価 | | | | | 5 学校運営協議会委員評価 | | |
|----------------|------------------------------------|---|---|---|--|--|----|
| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策(教育活動) | 評価基準 | 達成度 | 実践目標の達成状況の診断・分析 | 学校運営協議会委員からの意見・要望等 | 評価 |
| 学習指導 | 基礎学力の向上と学習習慣の確立 | 調査毎の生徒の「振り返り」を教科担当が必要に応じて支援する。さらに学期に1回、授業評価を実施し、評価結果の分析に基づいて授業改善を行い、生徒の基礎学力の向上を図る。 | 授業評価項目の中の授業の内容が「よくわかる」、「分かる」が合わせて 4: 90%以上 3: 85%以上 2: 75%以上 1: 75%未満 | 4 | 授業アンケートの結果 ・「授業がよくわかる」前期:座学99%、実技100%、後期:座学100%、実技100% ・「わかりやすい説明・工夫がされている」全期、座学・実技ともに100% 電子黒板やタブレット等のICT機器の適宜使用、「振り返り」による生徒の躓きへの支援が高評価につながったと考えられる。 | ・授業アンケートでは高い評価を得ている。 ・ICTの活用を積極的に進めてほしい。 ・欠席、遅刻が多い特定の生徒へは粘り強く指導を継続してほしい。 ・母集団が少ないので出席率を%で定めるのは検討の余地がある。 | A |
| | | 教員相互による授業参観を活用し、授業力向上に取り組む。 | 教員一人あたりの授業参観回数が 4: 5回以上 3: 4回以上 2: 3回以上 1: 3回未満 | 4 | 授業参観は、前期23回、後期19回、累計42回、教員一人あたり平均4.2回行った。 外国籍の生徒が在籍する3年には、教科担当以外に日本語のサポートをする教員1名が、また、1年の数学も、教科担当以外にサポート教員1名が授業に参加した。 | | |
| | | 学習習慣を確立させるため、高い出席率の維持に努める。 | 出席率が95%を超える生徒が 4: 60%以上 3: 50%以上 2: 40%以上 1: 40%未満 | 2 | 出席率が95%を超える生徒は6名/15名40%であった。内訳は、1年3名、3年2名、4年1名である。皆勤が1年に1名いる。全体の出席率は86%、学年別の出席率は、1年89%、2年84%、3年79%、4年96%である。特定の生徒の欠席・遅刻が目立つ。 | | |
| 生徒指導 | 基本的生活習慣の育成 | 社会人としての礼法ができるようになる。 | 授業時や校内での礼法がきちんとできる生徒が 4: 70%以上 3: 60%未満 2: 50%未満 1: 40%以上 | 4 | 挨拶がきちんとできる生徒が増えた。授業時の礼法も比較的できるようになり、指導の効果が見られた。 | | A |
| | | 時間厳守の意識をもたせ、実践できるようになる。 | 授業開始時刻にきちんと待機できる生徒が 4: 70%以上 3: 60%未満 2: 50%未満 1: 40%以上 | 3 | 一部の生徒を除き、時間を守れるようになってきている。今後も、更に自覚した行動がとれるようになってほしい。 | | |
| | いじめや問題行動等の未然防止 | 生徒情報交換会および生徒理解の研修を、前後期各2回程度実施し、その中で指導や支援に関する最新の知見を共有する。 生徒一人ひとりの変化に気を配り、いじめや問題行動の早期発見、未然防止に努めるために、アンケートや個人面談を積極的に行う。 | 4: 交換会および研修を前後期2回程度実施し、生徒情報及び最新知見の共有ができた。 3: 交換会および研修を前後期1回程度実施し、生徒情報を共有することができた。 2: 交換会や研修は定期的には実施できなかったが、生徒情報を共有することができた。 1: 実施できなかった。 | 4 | 定期の生徒情報交換を年4回、生徒理解と教育相談に関連した教職員研修を年5回実施した。多様な教育的ニーズのある生徒の対応に関して理解が深まった。 | | |
| 交通法規の遵守とマナーの向上 | 定期的に実施する安全教室と合わせて、定期的に登校時に注意喚起をする。 | 交通安全指導を 4: 1か月に2回程度実施した。 3: 1か月に1回程度実施した。 2: 2か月に1回程度実施した。 1: 3か月に1回程度実施した。 | 4 | いじめ等に関するアンケートを年2回、個人面談を担任・教育相談担当合わせて年3回実施した。第1回のいじめ等に関するアンケートで、いじめを受けた、見たという回答(同一ケース)があったが、生徒指導部と担任でアンケート前に対応しており第2回目のアンケートでは、いじめを受けた、見たという回答は皆無となった。個人面談等で生徒の変化に気付くことができ、いじめや問題行動等に早期に介入できている。 登校時に、それぞれが利用している交通手段(原付、自転車)についての安全指導を行った。 | | | |

| 評価領域 | 重点目標 | 具体的方策(教育活動) | 評価基準 | 達成度 | 実践目標の達成状況の診断・分析 | 学校運営協議会委員からの意見・要望等 | 評価 |
|---------|---|---|--|-----|--|--|----|
| 進路指導 | 生徒一人ひとりの進路について関心を高め、勤労観・職業観の育成を図り、ミスマッチのない進路選択の実現 | LHRや各種行事での進路学習、個人面談等を通して、生徒一人ひとりの進路意識を高揚させ、早期に具体的な進路目標を持たせる。 | 全学年の生徒において進路希望「未定」が 4: 10%未満 3: 20%未満 2: 40%未満 1: 40%以上 | 3 | 1年生に数名進路希望「未定」で就職と進学で迷っている生徒がいる。2年生以上はほぼ就職希望である。 | 卒業生3名が無事進路を決められたことは評価に値する。今後もガイダンスの充実、マッチングの促進に努めてほしい。 | A |
| | | 卒業学年生徒一人ひとりの希望に添った進路が実現できるよう支援する。 | 卒業学年生徒において 4: 全員の進路が12月末までに決定 3: 全員の進路が2月末までに決定 2: 全員の進路が3月末までに決定 1: 3月末までに進路先を決定できない者がいた | 3 | 4年生については9月末に早々に決定したが、3年生3修制の生徒については時間がかかった。最終的には自己就職で決定した。 | | |
| 特別活動 | 学校行事や生徒会活動を通じた活力ある学校づくり | 学校行事を通して、生徒の自主性を育成する。 | 4: 95%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が活発に行われた。 3: 93%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 2: 90%以上の生徒が参加し、生徒の自主的な取組が行われた。 1: 参加した生徒は90%に満たず、取組は停滞していた。 | 1 | 全体の参加率は87.6%となった。学年別の参加率は、1年92.9%、2年73.1%、3年85.5%、4年94.4%である。特定の生徒の欠席が多く見受けられ、欠席者0の活動が昨年度より減少した。しかし、参加した生徒については、皆積極的・協力的に活動に取り組んだ。 | 欠席の多い生徒の不参加は致し方ないが、全体的には十分取り組んでいると言える。 | A |
| 工業科 | 産業人として必要な技能・技術の習得 | 資格試験、検定試験の実施や外部人材活用により、生徒に基礎的な技能・技術を身に付けさせる。 | 資格・検定試験や外部人材の活用を 4: 年間6回以上実施した。 3: 年間4回実施した。 2: 年間3回実施した。 1: 実施できなかった。 | 4 | 危険物取扱者乙種4類の資格試験と、全工協主催の検定試験を6種実施した。また外部人材の活用として、溶接技術の向上を目的とした、ものづくりマイスターを招き指導を受けた。国家資格の合格者を出すことや、試験に対する学習意欲の向上が今後の課題である。 | 資格・検定試験や外部人材活用を積極的に進めている。研修についてもよく取り組んでいると思われる。 | A |
| | 技術の習得と技能の継承による指導力向上 | 工業専門科目やICTに関する研修会へ積極的に参加する。 | 教員一人当たり、研修に 4: 年間4回以上参加した。 3: 年間3回参加した。 2: 年間2回参加した。 1: 年間2回未満であった。 | 3 | 溶接に関する研修会や情報モラル、情報リテラシーに関する研修に参加した。また山口県工教研の主任研修会に参加した。ウェブ開催の研修は勤務時間内に出席できるが、機械科であるために実務を伴う研修会が多く、土日の出席が自己研修扱いとなるのが課題である。 | | |
| 業務改善 | 業務改善と勤務体制の改善による業務の効率化 | 各分掌において定期的に会議を実施し、業務改善及び業務の効率化を図る。 | 業務改善と業務の効率化を 4: 4つすべての分掌において実施できた。 3: 3つの分掌において実施できた。 2: 2つの分掌において実施できた。 1: 1つの分掌も実施できなかった。 | 4 | 4分掌すべてにおいて日常的に業務改善に取り組んでいる。しかしながら、現時点で既に十分進んでいるという側面もあるため、特に新たな取組として記載すべきものは少ない。今後はICT等の活用、データのフルクラウド化に向けて研修、実践を重ねる必要がある。 | 業務の効率化や定時退勤の呼びかけが功を奏しているのではないかと指摘。"ほぼ""時々""あまり"等の主観が混じる副詞は避けた方がよい。 | A |
| | 迅速な情報共有と緊密な連携による組織的対応の習慣化 | 毎日の連絡会を利用し、分掌間や分掌内の迅速な情報共有と緊密な連携を図る。 | 迅速な情報共有と緊密な連携が 4: ほぼ毎日図れた。 3: 定期的に図れた。 2: ときどき図れた。 1: あまり図ることができなかった。 | 3 | 連絡会後の時間を活用して、生徒情報交換会や観点別評価の検討、進路指導部会等を実施した。一連の会議を活用したことで、全教員間の情報共有や緊密な連携が図れた。 | | |
| | | 職場活性化のための定期的なジョブ・ローテーションを意識した校内人事をすすめる。 | 職場を活性化するための人事配置を 4: 十分すすめることができた。 3: いくらかすすめることができた。 2: あまりすすめることができなかった。 1: 全くすすめられなかった。 | 2 | 主任、副主任の連携・協力による業務の円滑な遂行と業務改善が図れたと答えた教員は80.0%であったが、ジョブローテーションは実践できていない。 | | |
| | 時間外業務時間の削減 | 定時退勤を呼びかけ意識改革を図る。また、必要に応じて日々の適切な業務の配分を行い、勤務時間内に全員が退勤できるように配慮する。 | 時間外業務の一か月当たりの平均時間が 4: 15時間以下 3: 20時間以下 2: 25時間以下 1: 30時間未満 | 4 | 定時退勤の呼びかけや日々の適切な業務時間の配分を行い、全員が定時で退勤できるように配慮した結果、4月の15時間以降1月までの間で15時間を超えたのは1月もなかった。最も少ない月は12月で8.0時間であった。 | | |
| 地域連携 | 地域に対する教育活動の周知 | 各種行事を広報・公開し、地元紙・広報誌等の連携及びホームページにより積極的に地域へ発信する。 | 各種掲載回数及びホームページの更新合計が 4: 10回以上 3: 8回以上 2: 6回以上 1: 4回未満 | 4 | 新聞・広報誌等の掲載回数1回、ホームページ更新回数9回であった。画像等の掲載を増やす方向で担当者として話を進めている。 | 真摯に取り組んだ様子がうかがえる。評価基準等を柔軟に見直して目標を達成してほしい。 | A |
| | 近隣中学校と本校定時制との連携強化 | 近隣中学校の授業公開への参観や学校説明のための中学校訪問、本校の授業開放の案内を行い、相互理解を深める。 | 中学校への訪問と本校授業公開の合計日数が 4: 15日以上 3: 10日以上 2: 8日以上 1: 8日未満 | 4 | 授業公開は5日間実施し、近隣中学校や高校から生徒、保護者、教員が参観した。学校説明会にも数名の参加があった。中学校訪問と合わせ15日となるが、訪問できない中学校には学校案内パンフレットを送付した。 | | |
| | 学校と家庭、地域社会との連携の強化 | デュアル研修、地域の伝統産業の学習、工場見学、老人ホームでの活動等、地域と連携した教育活動に取り組む。 | 目的を理解し、「意欲的に取り組めた」と答えた生徒が 4: 85%以上 3: 75%～85%未満 2: 65%～75%未満 1: 65%未満 | 3 | 感染症予防のため実施できなかった教育活動もあったが、生徒アンケートの結果から80%の生徒が目的を理解して「意欲的に教育活動に取り組めた」と答えた。 | | |
| ICTの活性化 | ICT機器の積極的活用による、指導能力の向上 | 全教員がICT機器(一人1台パソコン、電子黒板、アプリケーション等)を積極的に活用して授業力の向上と効率化に取り組む。 | ICT機器やアプリケーションを活用した授業が「できる」と答えた教員が 4: 90%以上 3: 80%以上 2: 60%以上 1: 60%未満 | 3 | ICT機器を積極的に活用している教員がほとんどである。教科それぞれの特性や、少人数で学習するため、授業における1人1台パソコンの活用は教科によって異なる。 | ICTの利用は避けられない流れだと思うので、個々の職員のスキルアップに一層努めてほしい。 | A |

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【各委員の方からのコメント】「生徒一人一人に寄り添った取組をされていることが分かった。」「今後も生徒一人ひとりと向き合った指導をお願いします。」「ICT機器の活用も少しずつではあるが進んでいるように思われる。」「継続してきめ細かく一人ひとりを指導している様子がうかがえる。」「さまざまな事情を抱える学生さんに対して細やかな対応を実施されている。」「等のコメントをいただきました。問題提起としては、「人数が少ない場合は、評価基準を%ではなく、～人、～回等で設定する必要があるのではないか。」等の意見をいただいた。

【成果】学習指導については十分な成果があったと評価できる。また、チャレンジ目標の一つである「進路実現100%」は達成できた。業務時間の縮減については十分目標を達成できている。

【課題】学習指導(教務)特定の生徒の欠席・遅刻が目立ち、全体の出席率を下げている。また、欠席の多い生徒は学習も遅れがちとなるので、学習習慣の確立のためにも出席率の回復・向上に努めたい。生徒指導(生徒)問題行動そのものは少なかったが、頭髪服装、礼法等の徹底ができなかった。進路指導(進路)就職ガイダンス等の時に話を聞いてほしい生徒が欠席をする。特別活動(教務)特定の生徒の欠席が目立った。業務改善(教頭)ワークシェア、ジョブローテーションの促進。地域連携(教頭)感染症のため延期されている地域貢献行事等の実施等。ICT活性化(情報担当)ICT機器の活用は徐々にすすんでいるが、基礎知識の不足や変化するアプリケーションソフトなどの活用に困難性を感じる生徒・教職員もいる。チャレンジ目標(教頭)諸事情で出席が安定しない生徒が数名おり、目標達成はかなわなかった。

7 次年度への改善策

学習指導(教務)生徒への声かけ・家庭との連携をより密接にして、細やかな指導をしていく。生徒指導(生徒)個別指導や全体指導で細やかな指導に取り組んでいきたい。進路指導(進路)様々な進路行事を通して、早期に進路目標が決定できるように支援していく。特別活動(教務)欠席がちな生徒への声かけを徹底する。生徒がより興味関心を持てるよう、各活動の見直しをする。業務改善(教頭)職員間の業務連携やワークシェア、効果的なジョブローテーションを一層促進させる。地域連携(教頭)スモールステップでも促進を図っていきたい。ICT活性化(情報担当)ICT活性化(情報担当)ICT機器の教育効果を把握して、何でもICTを使うのではなく、必要に応じた、環境に応じた利活用ができるようになることが課題である。チャレンジ目標(教頭)今後、生徒の心身の健康増進を図り、出席率向上を図りたい。